

視察研修等報告書

令和7年6月10日

坂井市議会

議長 佐藤寛治 殿

会 派 名 政友会

報 告 者 川畑孝治

1. 日 時 令和7年5月28日（水）～令和7年5月29日（木）
2. 視察研修先 (1) 東京都江東区有明3丁目11-1
東京ビッグサイト
(2) 東京都千代田区永田町2丁目1-2
衆議院第2議員会館 208号室
3. 視察研修内容 (1) 2025new 環境展・2025 地球温暖化防止展
(2) 環境省よりレクチャー
(リチウムイオン電池回収について)
4. 参加者 川畑孝治
5. 内容詳細 (1) 環境展にて、リチウムイオン電池などの回収について
紙おむつ処理について、その他新たな取り組みについて
(2) リチウムイオン電池などの回収に対する国の方針・対策
などについて
6. 所見・感想等
(1) 今回は、6月議会、8月の広域圏において、リチウムイオン電池の回収について一般質問予定なので、関連の展示を探した。
会場では、1業者が廃棄物の分別段階で、X線による発見・分別回収の機械を展示・説明をしていた、既存の分別コンベアーに後付けで機械を付けることができるようになっていた、デモンストレーションも行っておりハンディファンのように小さな物も、発見・分別ができていた。
国の補助などについても聞いたが、明確な答えはなかった。
また、火災発生を瞬時に感知する装置も展示しており、5mmくらいの鉄球を上から落とすだけで、瞬時に熱を感知し水が噴き出る装置も紹介されており防火対策としては有効に感じた。
紙おむつの処理については、従来からのメーカーが展示していたが、今回自治

体と連携して取り組んでいる展示があった、特徴は粉碎を２段階に分けて、１回目の粉碎で水分を含んでいる部分と、水分の含んでいない部分に分別していた、これにより、処理量を減らすことができ２回目の粉碎後に水分を含んだポリマーは科学的に分解して排水処理、残ったプラ・パルプなどはRPFとして燃料に加工していた、この方法だと処理するための熱エネルギーが不要で現実的な処理方法に感じ、今後の取り組みに期待したい。（写真撮影等は不可）

- (2) 新聞報道で環境省は家庭ごみとして出される充電式リチウムイオン電池を分別回収するよう求める通知を市町村に出し、回収などについて適正な方法を示して体制整備を促すと出ていた。

環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課より説明を受けた。

県に対しては、「市町村におけるリチウム蓄電池等の適正処理に関する方針と対策について」説明を受けた。

令和５年度には全国で８,５４３件もの火災事故等が発生しており、発煙・発火を含めると２１,７５１件との事であった。

資料の中で本市が広域圏を通じて処理している乾電池処理業者へ引き渡すドラム缶にリチウムイオン電池も一緒に入れていた、このことは今後の対策において有効な取り組みになると感じた。

また、県が窓口となり収集したリチウムイオン電池などをリサイクル業者に資源物として売り渡しているとの事であり、今後県に対しても何らかの形でアプローチしたい。

7. 添付書類 写真



▲NEW 環境展



▲環境省レクチャー